

One of your questions, which I'd like to move to, is; What is important in my life? Perhaps the first importance is similar to the Hippocratic Oath that a physician takes. Nurses take an oath, which is similar but not strictly the physician's oath. And that is, to do no harm, not to injure someone else, either physically or spiritually. And beyond that, to try to build, to improve the condition of the other people.

いただいたご質問のひとつで、次にお話したいのが、「私の人生で大切なことは？」というご質問です。おそらく、最初の重要なことは、医師が誓うヒポクラテスの宣誓文に近いものです。厳密に言うと医師の倫理綱領とは違うんですが、看護婦も、非常に近い宣誓をするんですよ。で、それは何かというと、肉体的にも、精神的にも、人に危害を与えない、傷つけないということです。そして、それを超えて、他の人の状況をよりよくするよう努力する、ということです。

the Hippocratic Oath that a physician takes 内科医の倫理綱領である「ヒポクラテスの宣誓文」

strictly 厳密に

And that is で、それは・・・

ロジック

「人生で大切なことは内科医の倫理綱領に似ていると思う」とメインポイントがきましたが、「内科医の倫理綱領って？ヒポクラテスの宣誓文って？」と多くの人には「スピーカーの人生において大切なこと」の具体的な内容がまだ見えてきません。英語では、詳しい説明として後ろから続くわけですが、このときに that is ... という表現が、「あ、具体的に中身を説明してくれそうぞ」という話の流れをつかむヒントになります。前に言ったことを that で受けて、「で、それって言うのは・・・」と「イコールマーク (=)」でつないでくれる感じです。

that is 以降は、詳しい内容を、to-不定詞のかたちで具体的な行動を挙げるかたちで説明してくれていますので、構文を追って聞いていきましょう。

to do harm 危害を与える

慣用表現

to do harm で「危害を与える」という決まった言い方です。「危害を与えない」は to do no harm のようになります。

physically 肉体的に、物理的に

spiritually 精神的に

And beyond that, それを超えて、さらには

ロジック

「人生で大切なこと」を that is...以下で具体的に説明してくれていますが、1点目は to do no harm 「人を傷つけない」でした。And beyond that,...で2点目が来たことが分かります。しかも、Beyond that...は「それ(1点目)を超えて」ということですので、2点目は1点目から発展してより重要だと言っている感覚もしっかりとらえましょう。

It starts with the family. It starts with nurturing the family, trying to take care of the needs of one's spouse, my husband, and also trying to help the children. He has three children who are grown and we have five grandchildren who are quite young.

まず、それは家族から始まります。家族を育むということです。自分の伴侶、私の夫のニーズに心を尽くし、子供たちを助けることですね。夫には3人の成人した子供がいて、まだ幼い孫が5人いますから。

It starts with ... まずそれは～から始まります

ロジック

直訳的には「まずそれは～から始まります」という言い方ですが、段階的にステップを追うかたちで説明したり、段階的に発展させていくかたちで話を進めていく場合に、このような言い方で最初の項目を挙げるのがよくあります。

It starts with ... It starts with ...

ロジック

一文目と同じ言い方で二文目が始まっています。このかたちで来たときは、直前に述べたことをもう少し詳しく説明したり、具体的に述べたりすることがほとんどです。一文目では、最初の項目として「家族」が挙げられましたが、「家族」に対して具体的に何をするのかを、二つ目の it starts with ... 以降で説明してくれています。

to nurture ~ ~を育む

やまと言葉

to nurture は、「あるものを大切に、それが育つために必要な様々な要素を与えながら長期的に育てていく」感じです。

trying to ....

ロジック

it starts with nurturing the family, と述べた後、trying to... のかたちで説明が2つ続きました。「to nurture the family 家族を育む」という言い方はまだ概念的ですから、英語ではこの後ろに、具体的な行動がイメージできるような詳しい説明や具体例がくることがほとんどです。trying to... と-ing のかたちで補う感じで情報が足されてきたら、「あ、詳しく説明してくれるかもしれないぞ」という意識で先を聞き進みましょう。

a spouse 配偶者

So, the focus quite naturally becomes the needs of the people who are closest to you.

ということで、やはりまず焦点は当然、自分に最も身近な人たちのニーズということになりますね。

So

ロジック

「と言うわけで、やはりまずは最も身近な家族を大切にフォーカスするということだと思います」と So で話を締めました。

the focus becomes ...

パターン構文

「考える視点としてはこうなります」、「考え方としてはこういうふうになると思います」という感じで、今まで説明してきたことの要点をまとめる感覚で使われる表現です。

They are not physically close to us, because one child lives in North Carolina, one lives in Texas, one lives in Kentucky now. The grandchildren are scattered between Arizona, and Texas, and North Carolina. So, we don't get to see them as often as we would like, and therefore some of the things that a parent or grandparent might naturally do, we don't have the opportunity to do.

物理的に身近にいるわけではないんですよ。子供のひとはノースカロライナ州におりますし、もうひとはテキサス州、もうひとはケンタッキー州に今います。孫たちは、アリゾナ州、テキサス州、ノースカロライナ州に散らばっています。ですから、思うほど会えるわけではないので、親や祖父母として当然するようなことで、やってあげる機会がないこともあるんですよ。

They are not physically close to us 物理的に身近にいるわけではないんです

ロジック

直前の部分で「身近な家族を大切に」と締めたところで、「身近」という意味で誤解がないように <挿入> が入りました。特に <挿入> に脱線するときの「旗印」表現は入っていませんが、not physically close 「ただしね、物理的な意味で近いのではないですよ」のように直前に述べた「身近」の意味合いをもっと具体的に定義する内容が来た時点で、「あ、誤解しそうな点を正す <挿入> の可能性があるぞ」という可能性を頭に置き、同時に、but で本論に戻ってくることを待つ感覚で先を聞き進みましょう。

to be scattered 散らばっている

やまと言葉

to be scattered で「散り散り、バラバラになって散らばっている状態」の感じです。

to get to see them 彼らに会うことができる

**慣用表現** to get to ...で「～の状態になる！ ～できる！」という響きがかかりますので、to get to see～で「～に会える、～に会う機会を得る」という意味で、セットでよく使われます。to get to talk to ～ 「～と話することができる、～と話す機会を得る」、to get to know ～ 「～と知り合うことができる、～と知り合う機会を得る」のように使われます。

as often as we would like 私たちが望むほど頻繁には(会えない)

**パターン構文** as often as we would like (to see them) が省略されています。英語では、「レベル」や「程度」を表す際、「we don't get to see them often 頻繁に会えない」のように絶対的な基準で言い切る言い方ではなく、このように「as often as we would like 私たちが望むほどには・・・」と相対的なかたちで言うことがよくあります。特に、何かマイナスのことを言うときにこの言い方がよくされ、「よい・悪い」のように絶対的な基準で判断して言い切ったような響きになることを避けるようです。

The plan didn't go as well as we hoped.

(そのプランは、私たちが望んでいたほどはうまくいかなかった)

The result was not as good as we had expected.

(その結果は、我々が期待していたほどはよくなかった)。

some of the things that a parent or grandparent might naturally do, we don't have ...

**文法** 面白い構文になっています。きちんとした文のかたちになると、we don't have the opportunity to do some of the things that a parent or grandparent might naturally do. となるところですが、倒置が起こって、do の目的語全体(some of the things 以下全部) が前に出たかたちになっています。これによって、「親や祖父母が“当然”するようなこと」がより強調されている響きになります。「“当然”であること”、そういうことさえも やってあげられないんだ」という感じになります。

But the emotional nurturing, the talking on the telephone, the helping them express their problems, helping them think through solutions to their problems is tremendously important.

でも、精神的な育み、例えば、電話で話したり、悩んでいることを話せるようにしてあげたり、問題を解決する道を一緒に考えてあげたり、そういったことがとても大切なのです。

But ...

**ロジック** 「距離で身近という意味ではない」と誤解を防ぐための長い挿入が入りましたが、この but で本論に戻りました。

the emotional nurturing 精神的な育み

**やまと言葉** emotional は、「心の面、感情の面、精神面」という意味です。

the talking ..., the helping ..., helping...

**ロジック** 「家族を大切にすると、距離に関わらずできる心のケアの問題だ」と詳しく説明してくれている部分です。説明部分の冒頭は「the emotional nurturing 精神面での育み」という言い方で言っていますが、概念的でイメージが湧きにくいですね。ここでもやはり、-ing で詳しい情報を足す言い方で、具体的な行動レベルでイメージが湧くような説明を後ろからしてくれています。特にここはそれによって、文のかたちが複雑になっている点でも注意が必要です。The emotional nurturing is tremendously important.という文の、主語 The emotional nurturing の後ろに挿入で入るかたちで -ing による説明が足されてきて、主語と述語動詞が離れてしまっています。このような場合でも、「概念的な言い方、抽象的な言い方をした場合は、後ろから詳しい情報で補ってくれる可能性がある」という話の流れのパターンに慣れておくことで、-ing による説明が始まった場合でも、「あ、the emotional nurturing の詳しい説明が始まったぞ・・・」と落ち着いて処理しつつ、かつ、まだ出てきていない the emotional nurturing の述語動詞を待つ感覚で聞き進むことができます。